

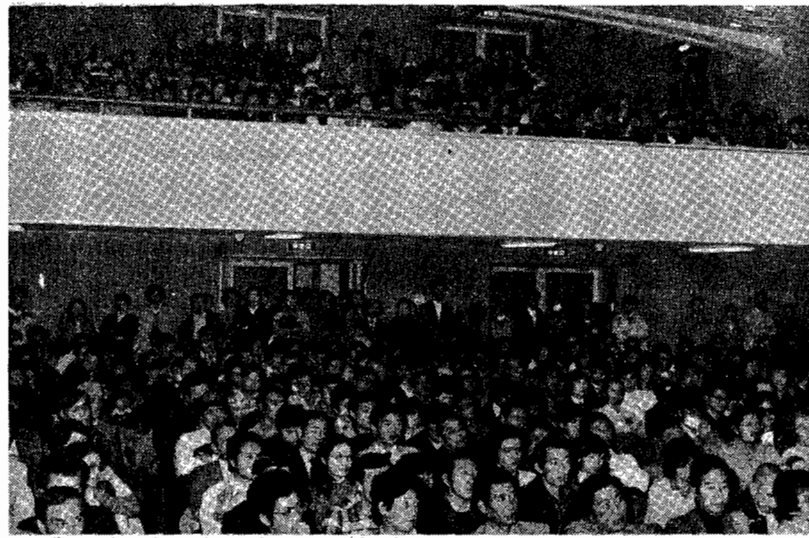
# 12.3集会

# 920名が公会堂埋め尽し、大成功

# 日刊 動労千葉

81.12.5  
No. 913

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五六(公衆)電話(22)七二〇七



ロビーにまであふれた闘う労働者の熱い視線は、闘いの方針・指導を求めている。

動労千葉が主催する、「右翼労働戦線統一」粉碎、三里塚二期着工阻止12.3労働者集会は、東京・牛込公会堂において開催され、首都圏を中心に全国の百二五単産・単組・団体から九二〇名の労働者が結集し、大成功をかちとった。



来年三月、反合・三里塚春闘の一大爆発をかちとり、右翼労働戦線統一を粉碎しよう!

## 報告の「壇上」にまであふれる結集で南会

集会会場は、続々結集した労働者によって埋め尽され、定刻の18時、吉岡執行委員の司会により、水野副委員長が「今日、総評指導部自ら総評解体攻撃に手を貸すという事態に、下部労働者は怒り決起している。この決起に動労千葉は大胆に手を貸そう」と、本集会の目的を述べ、力強く南会を宣言した。

まず最初に、主催者を代表して岡川委員長は、「侵略と軍事大国化へ導く攻撃が、労働運動を内部から変質させ解体するものとしてかけられている。動労千葉が先陣を切ってこれと闘い、労働戦線統一に反対する人民が首都に結集した意義は大きい。大きな潮流を創り出し、その力を三里塚二期着工反対闘争へ結合させねばならぬ」と挨拶した。

来賓の挨拶に入る頃には参加者が一階、二階の通路をも埋め尽しなお入場できない人達がロビーにまであふれたため、集会を一たん中断し青年部を壇上に移動させ会場整理して集会が進められた。



多くの労組・知識人等から賛同・激励・共感が寄せられた。

来賓の挨拶は、動労千葉の呼びかけに応え多くの労働者組合・知識人等の賛同を得たが、代表して三里塚芝山連合空港反対同盟・北原事務局長、動労ジェット闘争支援共闘会議・浅田代表世話人、労働運動評論家・高島喜久男氏、全造船石川島分會・佐藤委員長、全金本山労組・中野書記長、「労働情報」横山編集委員から挨拶をうけた。発言者のすべてから、帝国主義の攻撃としての労働戦線統一は粉碎しなければならぬこと。動労千葉と本集会参加者はその闘いの重鎮であること。三里塚闘争にこそ勝利の道があることが訴えられた。

(以下、次号に続く)